（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	金子　英治	所　属	工学部　電気電子工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	教育効果を上げるための施策として、本年度も毎回の小テスト、及び宿題の実施を行う。小テストと宿題の両方の提出をもって出席とすることを今学期は試行し、出席率の向上、予習、復習の励行を行わせる。従来要求していた講義ごとの質問書提出は今学期は毎回求めることはしない。毎回の授業ビデオ撮影は実施する。	0.30	前学期は昼間主に対する授業だけであった。小テスト、宿題の効果は十分にあがり成績アップにつながった。また、授業のビデオ撮りを行い、板書、口頭説明の問題点もいくつか判り、授業改善に役立ったと考える。後学期は夜間主に対する回路理論2科目を受け持ったが、基礎学力の不足している学生が多く、この科目の夜間主に対する授業の問題点が判った。（自己評価B）
研究	0.30	研究室の学生全員（修士、学部生とも）に研究の年度計画を提出させる。学会発表を主とした学外発表を義務つけさせる。 国際会議（ICEE）における英語発表、及び電気学会の研究会における英語論文セッションの英語発表に積極的に投稿、出席させる。 研究室の合宿研修を試行する。	0.30	研究室の学生全員に年間計画の立案、提出を行わせ研究の効果的な推進を行わせることができた。結果として、十分な内容の卒業研究論文、修士論文にまとめることができた。国際会議をはじめとする学外発表を十分に行うことができた。多くの経験を積んでもらったものと考える。合宿研修はヤンバルのバンガローを借りて実施できた。来年度も計画したい。（自己評価A）
社会貢献	0.10	オープンキャンパスにて高電圧技術の一部について高校生にわかりやすいプレゼンを行う。発表にあたっては研究室学生の参加を求める。 企業との共同研究を進める。成果を企業側で行い学生に発表させる。 教員免許教習を行い、県内の中学、高等学校の教員に電力工学の理解を得る。	0.10	オープンキャンパスに今年もたくさんの高校生が見学に来てくれた。推薦入試の面接でも、電力分野の技術関心を持ってくれる学生が増えて来ているように感じる。会社との共同研究は順調に進んでいる。結果について、国際会議、国内学会、研究会等で発表した。教員免許教習は今年度はほかの教員と交代することなった。（自己評価A）
管理運営	0.20	副工学部長として学部運営に携わる。 研究室内安全管理の再点検を行う。 学生の健康状況につき点検、確認を行う。 飲酒指導、交通安全指導を行う。	0.20	副工学部長として様々な学部運営に関わった。年度計画等について学部の活動推進を図った。 安全管理については、実験室等レイアウト変更を行い確実を期した。 修士ひとりが体調を崩し休学に入ったことは残念。家族と連絡を取りながら様子を見ている。（自己評価B）
進路指導	0.10	学部生の進学を援助する。 就職希望者については会社の紹介、推薦状作成等に関して援助する。 進路未定者ゼロを達成する。 学生の資格取得について援助する。	0.10	研究室の学生のうち、進学希望者以外全員7月には内定をもらい、大変順調であった。 資格取得については電検3種、2種、電気工事士2級、TOIC,TOEFLなど積極的に取り組んでもらった。（自己評価A）
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙1）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	千住智信	所　属	工学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	前学期は、学部担当科目（前期：電気法規及び施設管理（昼間主・夜間主）、エネルギー変換工学（昼間主）、後期：電気機器Ⅱ、パワーエレクトロニクス）を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解を助ける。大学院博士前期課程学生8名、博士後期課程学生4名の研究指導ならびに卒業研究の指導（卒業研究生5名）を行う。	0.00	平成24年度前期授業を支障なく実施した。また、後期授業は昼間主コースの2教科と夜間主コースの1教科を担当し、博士前期課程のパワーエレクトロニクス特論を実施した。博士後期課程では、知的制御特論を講義した。学部の昼間主コースの講義では学生TAを活用し、学生の授業理解を深めるため、きめ細かい指導を行っている。博士前期・後期課程の授業では学術論文を利用し、現時点での最新技術も考慮して講義を行った。さらに研究指導している博士前期課程ならびに後期課程の学生数は合計で12名、学部学生5名を指導した。本年度末で博士後期学生1名が短縮修了予定である。本研究室に所属する学生が学内外から多数受賞を得た。このような状況から、教育領域は、かなり評価できると判断した。
研究	0.20	大学院博士前期課程の学生と共に研究論文3編以上の採択を目指す。奨学寄附金90万円以上を獲得し、関連企業との共同研究または委託研究を実施する。電気学会の「新しい配電システムを構築するパワーエレクトロニクス技術調査専門委員会」の委員を務め、学会活動を通して研究の活性化に寄与する。また、海外の大学の研究者と共同研究を進め、研究成果を発表するとともに、学術交流を図る。	0.00	電気学会　新しい配電系統を構築するパワーエレクトロニクス技術調査専門委員会委員、電気学会　スマートグリッド時代の過渡現象解析技術協同研究委員会委員を務めた。国内の学術論文誌へ論文を投稿し、3編以上の学術論文が掲載された。また、国外の学術雑誌へ論文を投稿し、本年度は既に5編以上掲載されている。奨学寄附金も90万円以上獲得し、さらに共同研究費も獲得した。他の外部資金として沖縄県のライフスタイルイノベーション事業へ共同応募し、委託研究として実施した。国際会議の座長もつとめた。韓国の大学研究者と共同研究を進め、研究成果を国際会議で発表した。このような状況であるので研究領域は、かなり評価できると判断した。さらに、エジプトから外国人客員研究員を学内で受け入れ、共同研究を実施している。
社会貢献	0.20	電気学会九州支部沖縄支所委員を務める。電子情報通信学会評議員を務める。沖縄に賦在する天然ガス資源活用等に係る委員を務め、水溶性天然ガスの利活用法について提言する。公開講座を開催し、電気主任技術者の養成講座を開講し、社会へ教育・研究成果を還元する。電気学会、IEEE等の論文査読を行う。	0.00	電気学会九州支部沖縄支所委員、電子情報通信学会評議員を務めた。那覇市環境審議委員会委員を務めた。沖縄県「天然ガス資源有効利活用検討委員会」の委員長をつとめた。電気学会沖縄支所で講演会を開催した。琉球大学公開講座の講師（2講座の講師）も務めた。また、電気学会等の査読委員を務め、国内外の論文5件以上の論文を査読した。放送大学大学院の客員教員を務め、社会人を指導した。このような状況から社会貢献領域は、かなり評価できると判断した。
管理運営	0.20	下記に示す学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与する。特に学科の教育委員会では、委員長を務め、学科内の教育方法の改善に寄与する。 学科：教育委員会　　理工学研究科：総合知能工学専攻主任 工学部：教育委員会 全学：社会系科目企画小委員会委員、全学学士教育プログラム委員会	0.00	学科内では、教育委員会委員長として学科内の各種教育関係の業務を統括した。さらに、学科内、学部内、学内各種委員会委員を多数務め大学組織の管理運営に寄与した。学科学部、学内の各種委員会委員を多数務めており大学組織の管理運営に貢献している。工学部では工学部教育委員会を務めた。さらに琉球大学のURGCC実施準備のための全学学士教育プログラム委員会委員、就職センター運営委員会委員、学生生活委員会委員を務めた。総合知能工学専攻主任も支障無く務めた。このことから管理運営領域は、かなり評価できると判断する。
進路指導	0.20	研究室所属学生（博士前期課程3名）の就職指導を綿密に行うことにより、研究室学生の就職支援を行う。また、研究室所属学生の学部学生5名の進学に関して、TOEFLの受験指導を行うとともに、進学に必要な専門基礎科目、専門科目に関して受験勉強の支援を行う。このような努力により、研究室学生の進学・就職率100%を目指す。	0.00	研究室学生の就職指導、進学指導を綿密に行うことにより、就職率100%、進学率100%を達成した。学部学生の本学大学院（修士課程）への進学者は4名であり、外部からの1名（外国人私費留学生）を加えて来春5名の修士学生が本学大学院へ入学予定である。また、博士後期課程にも国費外国人留学生1名と社会人1名が入学予定である。さらに、博士前期課程の就職希望学生は、関西電力、沖縄電力等の優良企業へ入社が全員内定しており、さらに現在指導している博士後期課程学生は社会人であり、沖縄電力で継続して勤務を続ける。学部の就職希望者は琉球大学の事務部への就職が決定している。これらの内定先は学生の第一希望の企業である。このような成果により、進路指導領域は、かなり評価できると判断した。学位論文を希望する社会人に対して論文博士の審査を行い、無事学位を取得させることができた。以上のような進路指導状況おから進路指導は、かなり評価できると判断する。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	浦崎　直光	所　属	工学部電気電子工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	・担当科目（電気数学Ⅲ、回路理論I）を前年度の授業評価アンケートを反映させて改善を図る。 ・前学期大学院担当科目（電気機器工学特論）のを原則英語により授業する。	0.00	・電気数学Ⅲならびに回路理論Ⅰでは、演習採点を早期に行い、次回の講義までにおおむね返却できた。 ・アンケートで指摘のあった文字の大きさについては改善できた。 ・電気電子工学特論では、原則英語による講義を実行できた。
研究	0.30	・少なくとも1件の研究成果発表（学会発表、論文投稿）を行う。 ・研究助成金等へ応募し、外部資金獲得のための活動を積極的に行う。	0.00	・国際会議にて2件、国内会議にて1件の研究発表を行った。 ・丸文財団の交流研究助成に応募し、採択された。 ・共同研究1件を実施した ・電気学会主催の研究会ならびの講演発表会を各1件づつ開催した。
社会貢献	0.05	・産官学関連の行事に積極的に参加する。 ・技術相談等の要求があった場合は適切に対応する。	0.00	・電気学会九州支部沖縄支所委員として施設見学会を実施した。 ・IT津梁まつりにおいて電子工作教室を実施した。
管理運営	0.20	・JABEE委員として学科の教育改善に努める。 ・大学院入学者選考委員として、大学院の入試業務に努める。 ・3年次指導教員の連絡係として、円滑な学科運営をサポートする。	0.00	・教育改善のための外部評価委員会の準備を担当した。 ・大学院入試業務に携わった。 ・1・3年次合宿研究の企画・実施に携わった。
進路指導	0.05	・年次指導教員を担当している3年次学生に対しては、年次別懇談会をとおして進路指導を行う。 ・研究室配属の4年次学生に対しては、定期的に進路指導を行う。	0.00	・3年次学生については、年次別懇談会で進路指導を行った。 ・研究室に配属された3名の4年次学生に対し、3年次後学期の仮配属時点から定期的に進路指導を行い、3名の就職内定を決定できた。また、大学院学生3名の就職内定を決定できた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	山本健一	所　属	工学部電気電子工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成２４年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成２４年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	学部教育の授業では電気電子材料I(昼間主), 同(夜間主), 回路理論II(夜間主), 回路理論IV(昼間主,演習付き1.5コマ)の4科目(4.5コマ)を1年間で担当する. 授業をシラバスどおり実施することに加え, 科目のホームページを開設し講義資料および補足説明の閲覧を可能とする. また, 卒業研究およびセミナーを指導すると共に,電気電子工学概論や学生実験の一部について実験指導を行う. 大学院教育では, 講義(磁気物性工学特論)を担当する. また, 学部1年次の指導教員になっており履修指導をおこなう. オフィスアワーを週3時間開設する.	0.35	学部ならびに大学院前期課程全ての授業をシラバスどおり実施できた. 殊に回路IIはテキストを作成し昼間主の授業でも利用いただけた. 科目のホームページを電気電子材料I, 回路理論II, 回路理論IVについて開設し, 資料配布ならびに質問への回答など有意義に利用できた. 卒業研究ならびにセミナーでは年間をとおして2名の学生を指導した.概論や学生実験での実験指導も十分円滑に実施できた.学部一年次の指導にあたり修学指導を20名を中心に行うとともに,夏季合同合宿の指導にもあったった. オフィスアワーは週3時間開設し来室学生への質問対応できた.
研究	0.25	面圧縮力が電磁鋼板の磁気損失に与える効果について, 単板磁気測定システムを改良し, 特性測定を継続する.	0.25	単板磁気測定システムを改良し, 無方向性電磁鋼板に関する測定を行い, 国内および国外での学会発表を行った.
社会貢献	0.10	電気学会電力用磁性材料活用技術調査委員会のメンバーとしての活動をおこなう. 本年度, 琉球大学工学部で開催される電気学会産業応用部門大会実行委員を務める.	0.10	左記委員会の実行委員を務めた.その他,ICF11(2013年4月開催予定)の実行委員, 磁気探査機器性能審査委員会など学外委員会に関する活動も行った.
管理運営	0.25	工学部施設・環境委員会, 学生実験検討委員会, 学科学部入試委員会, 科目検討委員会(回路理論関係, 電磁エネルギー関係)の委員として工学部および学科の教育環境の保持・改善および管理運営に寄与する. 学生実験検討委員会では委員長となっており, 円滑な委員会活動が行われるよう統括する. さらに,全学委員会として生涯学習教育研究センター運営委員会に工学部代表の委員として参加する. また, 工学部教授会, 大学院および電気電子工学科学科関係の会議に出席し, 各組織の運営に携わる.	0.25	左記委員会において, 学内の教育環境の保全改善の管理運営に寄与できた.学生実験検討委員会では委員長として4回の委員会開催と教育環境およびデザイン教育の実施に寄与できた.
進路指導	0.05	卒業研究およびセミナー受講者に対して, 進路指導を行う.	0.05	卒業者については就職率100%となった.
	0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	野口　隆	所　属	電気電子工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学部、院担当科目で、しっかり理解させ、科目に興味をしめすよう努めて講義する。必要に応じ　Gp. 討議を入れる。英語の講義の開設、ゼミでの英語、討論（科学者の倫理は日本語で討論）を実施する。修士学位論文の指導と育成輩出に努める。		修士課程修了生に修論英語発表の指導し、実行した。院の講義では英語プレゼンテーションの指導した。院共通科目の科学者倫理でも貢献。恒例のFPDセミナー開催した。各種講義に討論をとりいれた。また学部集中講義で半導体講座の世話人として務めた。
研究	0.30	地域特性を生かした省資源でクリーンな半導体の研究を（太陽電池、光センサなど）を推進。国際会議発表（3件以上）、正規論文2件以上。産学、学学、海外共同研を推進。（部局間交流）　外部資金（研究費）の獲得。		特に光センサーでユニークな構造を提案し国際会議で発表。国際会議10件以上、（同関連論文含む。）サポインプロゼクト外部資金を獲得し、これをもとにいくつかの企業とも産学共同研究を推進。招待講演1件。特許出願1件、登録1件。
社会貢献	0.20	国際会議（AMFPD、IDW、IMID、AWAD他）の委員、論文委員、査読（JJAP, IEICE他）などに貢献する。国際的な研究、教育交流に貢献する。（韓国他）　教員免許審査、講義で貢献する。		国際会議の委員として貢献（AMFPD, IDW、IMIDなど）さらに沖縄開催のアジア太平洋半導体国際会議では実行委員長として貢献。教員免許講師として実行。海外交流は、韓国の湖西大学と相互に訪問し、学生の研究意欲を活性化し、国際的意識を向上させた。
管理運営	0.20	大学院入試委員関連で貢献する。研究推進委員として工学部内で貢献する。　教員免許審査、講義で貢献する。上記と関連するが、国際会議の委員、論文委員、査読などに貢献する。国際的な研究、教育交流に貢献する。（韓国他）		大学院の入試委員として、本試験、2次試験を無事に運営し、定員を確保した。また研究推進委員として工学部内で積極的に発言、提案した。またに記述したが、学会、論文査読などにも貢献した。ナノテク展、JST研究発表などに学内で推薦され、また積極的に参加し、琉大工学部をアピールした。
進路指導	0.10	１年次指導教員として、意欲的な学生には適正をいかすべく進路指導		進学、就職の意識を1年次の早い時期に持って勉学に励むべく、進路指導を有効に行った。講義の前後や研究室紹介の時も、ポジティブに本学科の科目に関心を持ち、将来に備えるようできるだけ親身に指導した。
	1.00		1.00	
計	2.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山里　将朗	所　属	工学部　電気電子工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目（回路理論Ⅰ，量子力学Ⅰ，電磁気学Ⅳ，電子物性工学Ⅰ）を担当し，JABEEの基準を満たす講義を行う.		学部担当科目（回路理論Ⅱ，電磁気学Ⅳ，電子回路Ⅰ，電子物性工学Ⅰ）を担当し，JABEEの基準を満たす講義を行った.
研究	0.30	大学院修士課程の学生と共に研究発表及び論文の採択を目指す.　外部資金を獲得し，関連企業との共同研究を継続し，実社会に応用できる技術の研究開発に努める.		科研費の新規採択及び，放射線検出素子の電極形成技術について引き続き研究を行った．また高専との合同研究発表会にて研究は票を行った.
社会貢献	0.10	高校訪問，オープンキャンパス等を通して，電気電子工学の社会における役割を紹介する.		那覇西高校を訪問し，工学部と電気電子工学科の案内を行った，オープンキャンパスでは色素増感型太陽電池の展示実演及び電気電子工学科を紹介した.
管理運営	0.25	JABEE委員，予算委員会，科目検討委員会，施設・環境運営委員などの委員会活動に積極的に参加する.		JABEE委員，予算委員会，科目検討委員会，施設・環境運営委員などの委員会活動を行った.
進路指導	0.05	年次指導教員として，学生の進路指導を行う.		年次指導教員として，学生の進路指導を行った.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）							
名　前		比嘉　晃	所　属	工学部電気電子工学科		職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.25	学部の講義では電子物性工学ⅠおよびⅡ，応用力学，電子デバイス工学Ⅱの4科目を担当する．講義はシラバスどおり実施する．また，卒業研究およびセミナーを指導する．また，学部4年次の指導教員として，学生の教育・指導を積極的に行い，オフィスアワーを週2時間ほど開設する.大学院では，薄膜材料工学特論を担当し，輪講形式で学生との議論を多くして，学生の理解度を高める工夫をする．		0.25	JABEEの基準を満たす講義を，電子物性工学Ⅰ，Ⅱ，応用力学，電子デバイス工学Ⅱで実施し，さらに演習等を積極的に実施して，学生の理解度向上に努めた．また，大学院での薄膜材料工学特論の講義では，各受講生との議論を重視し，より学生の専門的な知識修得に務めた．		
研究	0.30	関連分野の教員および大学院生と共に研究活動を進める．また，研究成果は学会発表を3件以上，国際学術誌への掲載を1件以上を目指す．さらに，外部資金の獲得に務める．		0.25	大学院生と共に研究活動を実施し，国内学会等で研究成果の公表に務めた．今年度は，当研究室大学院生の国内学会での2件の発表にとどまっており，また，外部資金について1件獲得し，一定の成果があった．		
社会貢献	0.15	学外での研究会開催に参画する．また，関連企業との共同研究を進め，研究成果の産業応用などで社会貢献を行う。		0.15	民間企業と連携して研究を進めており，研究成果の産業応用に務めてた．また，公開講座を開催し，電気電子工学技術修得の機会を提供した．		
管理運営	0.15	JABEE委員会，安全委員会，安全衛生委員会，代議会として工学部および学科の管理運営に関わる活動に積極的に参加する.特に，JABEE委員会，安全委員会では委員長として，委員会活の円滑な運営を行う．その他，全学の各種委員会，工学部教授会，研究科委員会，電気電子工学科学科等の会議に出席し，各組織の運営に活動に積極的に参加する．		0.20	工学部安全衛生委員会委員として工学部の安全衛生活動に貢献した．また，電気電子工学科安全委員会，JABEE委員会の委員長として学科の管理運営活動に貢献した．		
進路指導	0.15	研究室在籍の学生の進路についてきめ細かい指導・助言を行い、学生のを進路決定率の向上を図る。		0.15	研究室学生の進路指導を積極的に実施した結果，学部学生4名，大学院生1名全員の進路が決定しており（進学1名，就職4名），学生への指導に関して十分成果が上がったといえる．		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	金城光永	所　属	工学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I，同II，および量子力学IIと，夜間主コースにおける電磁気学IIIおよび電子回路IIを担当し，JABEEの基準を満たす講義を行う．また大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し，量子計算機のソフトウェアとハードウェアに関する講義を行う．	0.24	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I，同II，および量子力学II，および電気電子システム工学実験Ⅱのエンジニアリングデザイン教育と，夜間主コースにおける電磁気学IIIおよび電子回路IIを担当し，JABEEの基準を満たす講義を行った．また，大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し，最新のトピックをもとに教育指導を行った．
研究	0.30	量子計算機の実現に向けた基礎的研究開発に努める．その成果を基に国内学会発表および研究論文の採択を目指す．	0.24	量子計算機の実現に向けた基礎的研究開発の成果を国内講演会において4件発表した．また，研究論文2件執筆中である．
社会貢献	0.15	回路とシステムワークショップ実行委員として学外研究会の実施に協力する．また，公開講座として，小学生に対し電気電子への興味を持ってもらうため，簡単な電子工作教室を企画運営する．	0.16	回路とシステムワークショップ実行委員として8月に開催された学外研究会の実施に協力した．また，公開講座として，小学生向けの電気電子工作教室を企画運営した．
管理運営	0.15	教育委員，広報委員，情報教育委員，およびオープンキャンパス委員として，さらには学部の広報・図書委員長として委員会活動に積極的に参加する．	0.24	学科の教育委員，広報委員，情報教育委員およびオープンキャンパス委員として，さらに学部の広報・図書委員長として委員会活動に積極的に参加した．
進路指導	0.10	学部昼間主コース2年次の指導教員として，年次別懇談会，オフィスアワーなどを利用し，学生の大学生活および進路の指導を行う．また，研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行う．	0.12	学部昼間主コース2年次の指導教員として，年次別懇談会やオフィスアワーなどを利用し，学生の大学生活および進路の指導を行った．また，研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行った．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	景山　弘	所　属	工学部電気電子工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	新1年次対象の電気数学Ⅰ（昼間主）、電磁気学Ⅰ（昼間主）、回路理論Ⅰ（夜間主）を担当する予定である。毎回の講義において、前回の内容に関する小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮する。	0.30	新1年次対象の電気数学Ⅰ（昼間主）、電磁気学Ⅰ（昼間主）、回路理論Ⅰ（夜間主）を担当した。学生の理解度を把握するとともに、学生には、復習を促し、また、前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるようにするため、毎回の講義において、前回の内容に関する小テストを行った。
研究	0.30	金属酸化物を用いる界面制御と有機エレクトロニクスデバイスの高性能化に関する研究の一環として、金属酸化物を陰極に用いる有機エレクトロルミネッセンス素子の作製と評価を行う。研究成果は、論文あるいは学会発表の形で公表する。	0.30	金属酸化物を陰極に用いる有機エレクトロルミネッセンス（EL）素子の作製と評価を行った。その結果、陰極に金属酸化物を用いる素子は、金属酸化物を用いない素子に比べて性能が向上することを明らかにした。
社会貢献	0.10	昨年度と同様に、高分子学会　印刷・情報記録・表示研究会委員として、主にプリンタブルエレクトロニクス関係の研究会・講座を企画・開催する。学会・産業界の最新の研究・開発動向を社会に公表する場を設けることにより、この研究分野の発展ならびに社会への貢献に寄与する。	0.10	高分子学会　印刷・情報記録・表示研究会委員として、プリンタブルエレクトロニクス関係の研究会・講座を企画・開催した（10/18東京、12/20尼崎）。
管理運営	0.15	学科内の委員会として、教育委員会、安全委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、回路理論関係科目検討委員会、電子物性関係科目検討委員会、オープンキャンパスの委員を担当し、学科の管理運営活動を行う。	0.15	学科内の委員会として、教育委員会、安全委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、回路理論関係科目検討委員会、電子物性関係科目検討委員会、オープンキャンパスの委員を担当し、学科の管理運営活動を行った。
進路指導	0.15	学部2年次、および、修士課程1年次指導教員を担当し、学生の進路指導にあたる。	0.15	学部2年次、および、修士課程1年次指導教員を担当し、学生の進路指導にあたった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	曽根川　富博	所　属	工学部　電気電子工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	前期担当の4年電子システム工学実験，3年電気電子システム工学実験I，後期担当の3年電気電子システム工学実験IIでの、受講生の理解度を深められるよう指導を行い、前年度の締め切りまでに提出されたレポートの平均点の上昇を目指す。	0.35	前期後期の実験共に，受講学生の理解を向上させることができた。80点以上の学生の割合はそれほど変化は無いが，60点台の学生が減少し，その分，70点前半の学生の割合が増えている。但し，昨年度以前のレポートを参考にして，誤った記述が多く見られたので，今後検討したい。
研究	0.30	多孔質シリコンを用いた低誘電率材料の作製の研究論文の，投稿が完了したので，引き続いて，実験データに低誘電率化の改善，再現性等の追実験を行い学会発表，論文等の形で公表する	0.30	多孔質シリコンを用いた低誘電率材料の作製の，低誘電率化の改善，再現性等の追実験を行い，さらに基板種を変えることで更なる特性の改善が見られた
社会貢献	0.05	工学部講演会総会等、講演会主催行事に積極的に参加し貢献する	0.05	工学部講演会総会等、講演会主催行事に積極的に参加することができた
管理運営	0.25	工学部の交通指導委員会，学科の教育，実験検討，の各委員会に積極的に参加する。特に，教育委員会においては，担当している来年度の修学指導書の編集をスケジュール通り行い，来年度の入学生に問題なく配布できるよう努力する。	0.25	教授会，学科会議等への出席が不在時以外は十分に行えた。また，各種委員会も積極的に参加でき，教育委員会では担当部分の作業を滞りなく行えた。
進路指導	0.05	卒業研究を指導している学生の進路について相談に乗り，来年度の進路を決定させる。	0.05	卒業研究配属学生２名について，後援会主催の就職説明会等への参加を呼びかけたりして，両名の就職が決定した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	波平　宜敬		所　属	工学部　電気電子工学科	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.30	・外国人留学生の学習相談に応じ、きめ細かい指導を行う。 ・小テストや液晶プロジェクタ等を活用して分かりやすい講義を行う。 ・研究業績（論文、新聞記事など）を活用し、より実践的な講義を目指す。 ・研究室のゼミ等で、プレゼンテーション能力を向上させるよう指導する。	0.00	・留学生を指導した結果、日本学術振興会外国人特別研究員に採択された。 ・小テストを増やし、液晶プロジェクタを活用して分かりやすい講義を行った。 ・新聞記事などの最新のニュースを活用し、より実践的な講義を行った。 ・発表力を指導した結果、英語で卒論を発表できる学生を育てることができた。		
研究	0.30	・学会誌や国際会議で研究論文1編以上の採択を目指す。 ・外部資金獲得のため、研究プロジェクトに1件以上出願する。 ・学内横断型若手研究者育成の研究プロジェクトチームを指導する。 ・医療用フォトニック結晶ファイバ等の研究を行う。	0.00	・医療用フォトニック結晶ファイバに関する研究で、学会誌に10編及び国際会議で10編論文を発表できた。 ・研究プロジェクトに2件出願し、学生のための外部資金を2件獲得できた。 ・学内横断型”琉大ドリームチーム”の会長として若手研究者を育成した。		
社会貢献	0.20	・国際交流協定校の中国大連工業大学などとの国際交流を深める。 ・産学連携研究プロジェクトを1件以上立ち上げる。 ・NPO法人高度情報通信協議会の理事として光産業の発展に寄与する。 ・NPO法人日本ﾌｫﾄﾆｸｽ協議会の理事として光産業の発展に寄与する。 ・IEEE Photonic Society 福岡支部の活動に貢献する。	0.00	・中国大連工大の国際会議に学生3名を連れて行き、国際交流した結果、日中間の国際交流に長年貢献したことで、波平が”光＆照明賞”を受賞することができた。 ・沖縄計測(株)と防災無線関連の産学連携研究プロジェクトを1件提案した。 ・NPO法人高度情報通信協議会及び日本ﾌｫﾄﾆｸｽ協議会の理事として光産業の(植物工場等)発展に寄与した。　・IEEE 福岡支部の学会活動に貢献した。		
管理運営	0.10	・大学評価センター企画員として、中期計画策定案、自己点検・評価規則、評価センター規則、自己点検・評価連絡会規程等の改善を行う。 ・亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構教員としてライジングスターの野崎特命助教を指導する。	0.00	・中期計画策定案、自己点検・評価規則、評価センター規則等の改善を行った。 ・亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構教員として野崎特命助教を指導した結果、無事、ﾃﾆｭｱﾄﾗｯｸ制度に合格させることができ、また、電気電子工学科の准教授として平成25年4月から採用されることとなった。		
進路指導	0.10	・3年次指導教員として、学習及び進路指導の相談に応じきめ細かい履修指導を行う。 ・研究室の指導教員として、きめ細かい学習及び進路指導を行う。 ・大学の就職センターの全学の就職活動を支援する。	0.00	・3年次指導教員として、学習及び進路指導の相談に応じきめ細かい履修指導を行い、留学生の推薦状を2，3書いてサポートした。 ・研究室の指導教員として、きめ細かい学習及び進路指導を行った結果、1名大学院進学で、3名就職することとなった。 ・進学・就職情報を提供し、就職センターの全学の就職活動を支援した。		
	0.00		0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	藤井 智史	所　属	工学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目についてはJABEEの基準を満たす講義を行う。大学院担当科目は、輪講形式で実施し学生の自主的学習を促すようにする。 2年次担当教員として、担当学生に履修指導を行なう	0.30	学部担当科目（電気電子計測工学ＩおよびⅡ、通信工学Ⅰ）についてJABEE基準を満たす講義を行った。大学院担当科目（信号処理特論）は輪講形式にて実施するとともに毎週課題を出して自主学習を促した。2年次担当教員として20名の学生を担当し履修指導を行い、就学相談に応じた。
研究	0.30	交付される科研費のテーマを研究計画にのっとり遂行する。 九州大学応用力学研究所研究集会を研究代表として主催する。 国際会議、国内学会、研究集会で発表を行う。	0.30	科研費の研究テーマに対して論文発表を行い、同論文に対して港湾協会賞の授与が決まった。総務省SCOPEに採択され沖縄科学技術大学院大学と共同で研究を開始した。ソウルでのアジア最初の海洋レーダ国際会議で招待講演に招聘され、日本を代表して講演を行い、その内容を投稿した。また、九州大学応用力学研究所共同研究集会の代表者として主催し、本年度は国際セッションを企画し周辺各国からの参加を得た。三菱電機からの委託研究テーマを受託した。
社会貢献	0.20	国土交通省と協力し、総務省情報通信審議会の作業班に参加して海洋レーダの技術基準を作成する 九州地区国立大学連携にかかる企画委員会シンポジウム部会委員会に琉球大学代表として参加し、九州地区国立大学間の連携に寄与する。	0.20	総務省にて海洋レーダに関する技術基準策定作業に従事し、省令案の策定を行った。総務省電波利用料研究課題評価専門委員として提案課題ならびに応募課題の評価を行った。 九州地区国立大学連携にかかる企画委員会シンポジウム部会に琉球大学代表として参加し、大学連携の議論を進めた。
管理運営	0.10	学科内委員会の委員として職務遂行する。 社会連携委員会ほか学部内委員会に参加貢献する。 学長補佐の職務を遂行し全学の運営に貢献する。	0.10	学部社会連携委員会委員として工学部後援会ならびに就職説明会の開催等に寄与した。 学長補佐として学長からの諮問等に応えた。
進路指導	0.10	学科就職担当として、学科及び専攻の学生に対してタイムリーな情報を発信し就職支援に役立つよう工夫するとともに、直接の相談に積極的に対処する。 研究室4年次学生に対して、就職希望者には進路相談、推薦状作成等に対応し、大学院進学希望者には入試指導、大学院につながる研究指導を行う。大学院博士前期課程学生に対して、進路についての相談にのり就職等のサポートをする。	0.10	学科就職担当として、卒業生・修了生の進路相談、就職指導、求人先企業対応を行った。本年度の就職率は96%（未決定2名）。 研究室4年次学生就職希望者の就職相談に対応し推薦書作成など支援した。その結果、就職希望者全員5月段階で内定を決めることができた。大学院進学希望に対して、研究指導に加えて学習指導を行い入試合格することができた。大学院前期課程2年次学生への就職指導は実施中である。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長田康敬	所　属	工学部 電気電子工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	・情報関連の講義と電子計算機関連の講義を行なう. ・情報数学の教科書を再執筆する. ・電子計算機関連の教科書をまとめる.	0.20	・情報関連科目を担当し何度も課題を出し，採点までを行なった. ・情報数学の教科書を再執筆したが，まだ4割程度しかできていない. ・電子計算機と情報理論の教科書を7～8割まで執筆した．もう少しである.
研究	0.20	・開発した新しい素子に関する論文を投稿する予定. ・IEEEの国際学会で研究発表を行なう事. ・ファジー論理に基づくシステムの開発を進める事.	0.20	・沖縄高専と共同で執筆した論文が掲載された. ・IEEEの国際学会の講演論文が通り，2013年5月に講演予定である. ・ファジー論理に基づくシステム開発は遅れている.
社会貢献	0.20	・産官学の協力体制を維持し，研究開発のための資金を有効利用する. ・会社との研究を通して，技術のスキルアップを図る.	0.10	．戦略的基盤技術高度化支援事業で4千万円の外部資金を獲得し，関連する研究や論文が出た. ・企業，産総研との連携を通し，技術のスキルアップが図れた.
管理運営	0.20	・学科長として学科運営を行なっていく. ・学科長関連の各種委員会に参加し，効果的な活動を行なう.	0.30	・学科長の業務をこなし，運営をおこなった．良好であったと思う. ・学科長に関連する各種委員会に参加し，業務を進展させた.
進路指導	0.20	・研究室の卒研生および博士の学生の進路指導を行なう. ・特に論文指導を行なう.	0.20	・研究室の卒業研究生の技術の獲得が行えた．進路も全て決まり，3名が修士へ進学する. ・博士の学生の指導は足りなかったと思う.
	0.00	・	0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長堂　勤	所　属	工学部電気電子工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	学部担当科目（システム工学I・II、ディジタル信号処理、卒業研究、セミナー）を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。授業アンケートの結果に対応する。	0.35	学部担当科目については，ほぼJABEEの基準を満たす講義が行えたものと考える。
研究	0.35	研究論文の採択を目指す。 国内外で研究発表を行う。	0.35	今年度の研究業績：レフリー付き学術論文2件（掲載決定を含む）
社会貢献	0.15	沖縄高専の講義（制御工学）を担当し、地域社会へ貢献する。	0.15	前学期において沖縄高専の講義（制御工学）を実施した。
管理運営	0.10	安全委員会、附属図書館運営委員会などの委員会活動に積極的に参加する。	0.10	安全委員会については，ほぼ毎回参加しており、各研究室の安全・衛生点検に加わっている。附属図書館運営委員会についてはメール審議を含め毎回参加した。
進路指導	0.05	卒研生および指導担当年次学生に対しての進路相談等に対応する。	0.05	担当する卒研生に対し、進路指導および就職担当教員からの連絡を行なった。本年度は担当する卒研生全員の進路（就職）が決定した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	半塲 滋	所　属	工学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	(1)学生の学力に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意して講義を進める。(2)卒業研究において、学生の創意工夫の余地があるようなテーマを設定し、学生がみずから考えて研究を進めるよう指導する。	0.40	(1)電気数学Iおよび技術者の倫理の講義資料を改訂した．とくに技術者の倫理については昨年度の反省を踏まえて大幅な改訂をおこなった．授業評価アンケートの結果学生にはおおむね好評であることが判明した．(2)学生に美ら海水族館に見学に行かせ，自分で研究テーマを決めさせた．卒業研究中間発表および最終発表ではどの学生も高得点であり，意欲的に卒業研究に取り組んだことが確認できた．
研究	0.40	(1)非線形制御理論に関する研究を進める。(2)年度内に1本以上論文を投稿する。	0.40	(1)科学研究費助成事業 基盤研究(C) 非線形制御，非線形計画法と微分方程式の数値解法の融合 の研究計画に基づき研究を進めた．(2)SIAM Journal on Control and Optimization に論文を投稿した(査読中)
社会貢献	0.05	講義資料や出版済み論文などを、著作権上問題がない限りにおいて、適宜ホームページにて公開する。	0.05	講義資料の改訂版をホームページで公開した．
管理運営	0.10	(1)計算機システム管理運営委員長として学科ネットワークの管理運営作業をおこなう。(2)JABEE委員の業務に取り組む。	0.10	(1)計算機システム管理運営委員長として学科ネットワークの管理運営作業をおこなった．(2)JABEE委員の業務をおこなった．
進路指導	0.05	(1)勉学意欲が高い学生には進学を勧める。(2)就職活動の進め方について学生に指導する。	0.05	進学2名，就職1名で，卒業した学生全員の進路が確定した．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

(別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　　前	長名 保範	所　　属	工学部電気電子工学科	職　　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成２４年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成２４年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	学部の授業に加えて、今年度は新たに卒業研究の指導および大学院の講義を担当するため、充分な時間をかけて準備を行う。	0.45	学生実験･卒研指導と大学院講義を行った。卒研生のセミナーや、大学院講義の進め方には改良の余地があり、来年度に活かしていきたい。
研究	0.40	従前からの高性能計算機アーキテクチャに関する研究とその共同研究体制を維持・発展するとともに、生命科学関係の新たなテーマについての研究を立ち上げる。	0.35	卒研生と協力しながら計算機アーキテクチャに関連する研究を行った。いまのところ論文になるような成果には至っていないが、今後の研究の重要な基礎になると考えている。また、個人でも生命科学関連のツールの開発に着手し、Web で公開した。来年度には論文につなげていきたい。
社会貢献	0.14	学会における論文誌編集委員・研究専門委員などの活動を継続する。	0.14	電子情報通信学会の英文論文誌編集委員、研究専門委員などの活動および、それに関連する国際会議である ICFPT 2013 の委員として国際会議の準備にあたった。
管理運営	0.04	学科の入学者選抜委員会等の担当委員の活動を通じて大学の管理運営業務を行う。	0.04	学科（入学者選抜委員会等）・学部（選挙管理委員会）の各種委員会の業務を行った。
進路指導	0.02	主にゼミ生の進路指導を、また、指導教員として担当している2年次の学生についても必要があれば進路指導を行う。	0.02	主にゼミ生の進路指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。